

いまどき オフィス探訪

1日の大半を過ごすオフィス。せっかくならば、働きやすい環境を整えたいところ。いまどきのオフィスを訪ね、これからのオフィス環境のあり方を探ります。

多様な使い方を実現する ラグジュアリーオフィス



▲6F ルーフバルコニー

フリーアドレスで自由に利用可能。終業後に社員による交流会を開催することもしばしば。



▲5F 執務スペース

デザイン部の社員が勤務。飛沫防止ボードの設置、席間スペースの確保などで3密を回避。

株式会社オリバー 東京本社

- 所在地 東京都江戸川区
- 業種 総合インテリアの製造・販売
- 社員 532名 (内 東京本社 143名)
※平均年齢34歳



▲1F バックヤード

配送業者の人が来るたびに対応するのは非効率なので撤廃しようと、バックヤードを設け、原則として置き配仕様に。

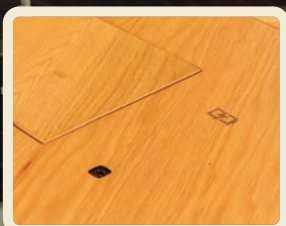
いまオフィスのあり方に大きな変化が生じている。
コロナ以前よりリモートワーク体制が整っていたという株式会社オリバーの東京本社を訪ねた。

**デジタルシフトによって
働きやすさを獲得**

インテリアの製造・販売を行う株式会社オリバーは、1967年に愛知県岡崎市で創業。事業の一環で2019年12月、江戸川区西葛西の東京本社を改装し、ショールームを兼ねた体感型オフィスを開設した。

東京本社は、1フロア約100坪弱の6階建て。1〜2階がショールームを兼ねた執務・ミーティングスペース、3階が営業統括本部・経営企画室・東京総務課、4階がチェーンストア部、5階が東京デザイン部、6階が会議室・開発部のスペースだ。

1階は、「オフィスワーク中心の内勤社員に快適な空間を提供したい」という思いからリニューアル。ユーカリの香りが漂い、メロウな音楽が流れる空間は、まるでリゾートホテルのラウンジのよう。大型ディスプレイも設置され、複数人でのリモート会議にも



▲1F 執務スペース

フリーアドレスを採用。デスクは昇降式で、非接触充電器が埋め込まれているため、スマホを置くだけで充電可能。また、格納されたワイドディスプレイをスマホで操作し、ワイヤレスで接続可能な外部ディスプレイとして利用できる。



▲1F ラウンジゾーン

エントランス横のカフェ風ミーティングスペース。商談等に利用される。執務スペースとしても利用可能。



▲1F バーカウンター

電子レンジや業務用冷蔵庫を備え、コーヒー・お茶が飲み放題。ケータリングを利用して、セミナー後の懇親会や、社内交流会などでも活躍。

事欠かない。デスクは昇降式で、レイアウトも自由に変更できるため、セミナーや勉強会、立食形式の懇親会にも活用される。

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、各フロアの入り口に「MAP」を設置。原則一方通行とし、席と席の間を広げることで3密を避けている。出社率も現在は6割にセーブ。Microsoftの「Power BI」を使って、各拠点の出社率をデータで管理している。

「当社では7～8年ほど前からペーパーレス化が進んでいます。『紙の書類は一切受け付けない』という社長の号令のもと、帳票にハンコが不要になり、オンラインで完結します。Microsoft Teamsもリモート会議もコロナ前から導入しており、固定電話を廃止してiPhoneを支給、取引先から届くFAXも自動でデータ化されます」（営業統括本部営業企画部長・八木英則氏）

トップダウンによる変革には反発もあったが、結果的に残業時間は6割減、3年以内の離職率も2割以下に大きく下がった。時代に即した働きやすさを追求することが、社員のエンゲージメントをも高める好例だろう。